



# ふじ美が原

富士見中学校

特集：2学期終業式

## 二学期終業式

### 様々な充実感を胸に、二学期が終了しました。

一年間で一番長い学期であり、クラス、学年、全校でつくり上げる大きな行事があった二学期が終わりました。終業式では、各学年の生徒代表の意見発表、校長講話がありました。

「多くの宝を実現した二学期  
心を配れる自分を目指そう」

学校長 曾根原 好彦

ただいまは、一年生の長尾さんが、学級長として自主的に動いた姿の振り返りを、二年生の折井さんは、学級としての団結と三学期の抱負を、三年生の小田さんは、受験生として学習に打ち込む決意を発表してくださいました。

二学期には、たくさんの方々の行事がありました。ストーリー性に溢れた白鈴祭は、私の心に深く残りました。企画・運営をした役員の方々をはじめ、全校を引っ張った三年生の皆さん、そして、

創意あふれる発表をしてくれた一、二年生の皆さん、すべてに感謝です。

涙が溢れそうになった合唱祭。各クラスの合唱はもちろん、学年合唱、全校合唱も、感動で心が揺さぶられました。新人の部活動でも、たくさんの方々の賞状やトロフィー等が廊下に飾られています。素晴らしい結果を残されました。頑張りが光りました。

さて、生徒会でも話題にして下さっているように、富士見中にはたくさんの方々の宝があります。私が、朝、横断歩道に立って、皆さんの登校のサポートをしていると、歩いて登校してくる中学生は、大きな声の人もいれば、小さな声の人もいますが、皆さん挨拶をしてくれず。地域の方から、挨拶に関するお褒めの言葉を電話でいただいています。挨拶は、富士見中の宝であり、プライドです。

合唱祭後、今年度、審査をして下さった先生は、ずっと「富士見中すごい、富士見中すごい。負けていられない」とつぶやいていました。地域の方

から、合唱についてもお褒めの電話をいただいています。合唱は、富士見中の宝であり、プライドです。

無言で取り組む熱中清掃も、富士見中の宝であり、プライドです。縦割清掃前は、一年生の中には、取組の甘い人もいましたが、縦割清掃後は、手本となる先輩の姿に学んだのか、学校全体の清掃が引き締まりました。

このように、富士見中にはたくさんの方々の宝があります。一学期に「常に一流たるをめざせ」という話をしましたが、



この宝を実現している姿は、まさに一流です。今日は、二学期を終え、平成二十九年もあとわずかとなり、三十年を迎えるに当たり、皆さんに自分自身を振り返ってもらおう話をしたと思います。これは、富士見中の生徒として、一人一人が心掛けてほしく、富士見中の宝になればよいなという、私の願いです。それは、「心を配る」ということです。日本にある、お客さんの状況に合わせた最高の心配りを提供している場所、東京デイズニールンドの話をします。

ある日、若い夫婦が二人でデイズニールンドのレストランに入ってきました。夫婦は二人がけのカップル席に案内されると「お子様ランチ二つ」と注文しました。ところがデイズニールンドには「お子様ランチは九歳まで」というきまりがあるそうです。

キャストは丁寧に頭を下げて言いました。「お客様、大変申し訳ございません。お子様ランチは大人の方がお

召し上がりになるには量が少なすぎますので、お子様限定のメニューになっております」

それを聞いた女性は、がっくりと肩を落としました。キャストは、女性がとてもがっかりしたのを見て、これは何か特別な理由があるかも…と思いい切つて尋ねてみました。

「お子様ランチは、どなたがお召し上がりになりますか？」

女性は静かに話し始めました。「実は、私達二人には子どもがいたので一歳のお誕生日を迎える前に、病気で亡くなったのです。生前、子どもの病気が治って元気になったら、いつか三人でデイズニールンドに行つて、お子様ランチを食べようね」と約束していたんです。なのに



結局、その約束を果たすことができなかったんです。今日は、子どもの一周忌なのですが、子どもの供養のために、その約束を果たそうと思つてデイズニールンドに来たんです」

キャストは二人に向かって深々と頭を下げると、「かしこまりました。お子様ランチお二つですね。それでは恐れ入りますが、お席を移動していただけますか」と言つて、二人掛けのカップル席からファミリー席に移動してもらいました。

そして、キャストは、二人の間に子供用のいすを準備すると、「お子様はどうぞこちらに」と、まるで子どもがいるかのように導きました。しばらくすると、お子様ランチを三つ持ってきて、子供用のいすの前に三つ目のお子様ランチを置いて言いました。「こちらには、デイズニールンドからのサービスです。ご家族でゆっくりお楽しみください」

二人はとても感激したそうです。そして後日、デイズニールンドにこんな

手紙が届いたそうです。「お子様ランチを食べながら涙が止まりませんでした。私たちはまるで娘が生きているかのように、家族の団らんを味わいました」

このご夫婦が、お子様ランチを言葉少なにゆっくりといただいたか、子どもを語りながらいただいたかは定かではありません。しかし、デイズニールンドのこの心配りに、心温め、我が子を供養しつつ、我が子に思いを馳せ、さらには、先だった我が子に恥じない生き方をしようと、愛する我が子に誓つたに違いないと思います。

夫婦の願いは、事情を知らない者にとつてはお子様ランチの注文…、表面的にはそうとしか映らないかもしれませんが、もしあの時、スタッフが「特別な理由があるかも…」とは思わずに、「そういう訳ですので他のメニューからお選びください」と丁寧に進めていけば、この心温まるエピソードはこの世に誕生しませんでした。このスタ

ツフの心配りによって、この逸話が生まれました。

さて、このような、相手の状況に応じた心配りは、皆さんも、一人一人の心がけて実行できます。学校で、学年で、クラスで、委員会や係活動で、部活動で、そして、皆さんの家でも、相手の状況に思いを馳せ、心を配る言動を取ることが出来ます。皆さんの周りに、困っている人はいませんか。悲しい思いをしている人はいませんか。寂しい思いをしている人はいませんか。そんな人がいたら、あなたは何を伝えることができますか。どんな行動が取れますか。お家でも、ご家族が忙しくしていたら、お手伝いや感謝の言葉を伝える等、心配りができると思います。今年を振り返り、今の自分自身や周囲の状況を見つめ直し、心を配れる自分をめざして、よいお正月をお迎えください。そして、一月九日には、また元気に会いましょう。

## 「二学期を振り返って」

一学年代表 長尾 嘉成

二学期を振り返ってみると、文化祭や合唱祭など様々な行事がありました。その中で、自分は「人のために動く大切さ」を学びました。

僕は中学校に入学してルーム長になりました。ルーム長は、クラスの先頭に立ってまとめなければいけません。しかし、上手にクラスをまとめることが出来ませんでした。文化祭では、縦割りの活動を通して、二年生や三年生の先輩達が上手にクラスをまとめている、見習いたいと思いましたが、先輩達は一人一人に的確な指



示を出したり、周りを見ながら行動していたからです。僕は活動に見通しをもって行動していなかったり、先生に言われてから行動してしまったり、「このくらいいいや」など、自分に甘くなることがありました。だから、「自分から動く」ということを大切にしながら生活しました。

しかし、考えていても、どのように動けばいいのかわからず、悩むこともありました。そこで、授業や給食、清掃など自分から動くことを大切にしようと思いました。授業では、発言を意識して取り組んだり、清掃は気持ちを入れてぞうきんがけをしたり、給食では、自分から手伝ったり、呼びかけを大きくしました。そのような行動をするうちに、周りの人も動いてくれるようになり、うれしかったです。人に何かをすることは、緊張し、勇気が必要だったりすると思います。しかし、自分が行動した分、周りの人と同じことをしてくれることが分かりました。

## 「二学期の反省と課題」

一学年代表 折井 日向子

三学期は、一学年が新入生を迎える立場になります。新入生の見本になれるように、日々の生活を見返していきたいです。

私がこの二学期中に頑張ったことは「団結する」ことです。二学期には白鈴祭や体育祭、合唱祭など仲間と協力する機会がたくさんありました。そこで協力をするので一つ一つの行事を思い出深いものにし、仲間との絆を今までより強くすることができたから、私はこの二学期は「団結」を頑張れたな、と思います。そして、二学期の反省を基に、三学期の自分自身の目標を二つ決めました。一つ目は、「積極性」です。私は一学期、二学期と発言やリアクションが少なく、あまり授業の評価がよくなか

つたり、みんなを引っ張っていかなくてはならないといけない場でなかなか説明や意見が伝わらなくて困ったりしたことがあります。だから三学期には、大きな声でハキハキともの言い、授業など発言の場では、わかったら自分から手を挙げて発言する、ということ徹底していききたいと思います。



二つ目は、「考えて行動すること」です。私は今まで、考えはあるけど、なかなか行動に移せなかったり、何か行動しないといけないときに何をしたらよいか分からなかったりしたところが何回かありました。だから、自分が今しなればいけないことを理解し、ただ動くだけではなく、さらに周囲の状況や相

手のことを考えて行動したいです。以上の二つに力を入れ、三年生としてお手本になれるよう、二学期から意識して行動したいと思います。

### 「二学期を振り返って」

二学年代表 小田 皇輝

自分はこの二学期、三つのことに全力で向き合ってくることができたと思います。

一つ目は、白鈴祭です。昨年、この学年が生徒会を引き継いでから、一番大きな行事だったと思います。自分は役員という立場ではありませんでしたが、生徒会を背負って立つ三学年の一人として、一つ一つのことに全力で取り組めたと思います。例えば、体育委員として体育祭を全校の皆さんが思いきり楽しめるように、また、委員長や副委員長が動きやすいように裏の仕事を一生懸命に取り組むことが

できました。また、ステージ上に立つ役員をしている学年の仲間がやりやすいように学年全体で盛り上げることもできました。

二つ目は合唱祭です。クラス単位で一つのものに向かっていく大きな行事の一つです。当日までは、本当に簡単ではありませんでした。自分は音楽に詳しくないので、アドバイスなどとは言えませんでした。ですが、自分のできることは精一杯やろうと思って取り組んできました。自分が一番意識したことは、心配するにも成功するにも自分の声で歌うということ。富士見中としては、もう二度とステージ上で歌うことはできませんが、あの一瞬が自分にとってとても大切なものになりました。

三つ目は学習です。自分が今までと変えたことは、出された課題への気持ちの持ち方です。今までは、出された課題に対してこなすだけでした。今は自分や自分を応援して売れる人のために頑張ろうという気持ちで取り組



んでいます。これから僕たちは三学期は受験を受験を

迎えます。学年全体で入試に向かう雰囲気をつくり、受験を乗り切りたいと思います。そして富士見中の三年として、誇りを持ってそれぞれの受験に臨むために、充実した三学期を送りたいと思います。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

「心を配る」、二学期の振り返り、三学期の生活に活かしていきたい、大切な視点ですね。

代表生徒の発表が、二学期の充実は人と人との関わりの中から生まれているということを教えてくれました。三学期をよいためめの学期とするために、心を配り、行動することを富士見中の宝の一つに加えていきたいですね。